

令和7年度 藤岡市立小野連携型小中一貫校 学校改善アンケート集計結果（保護者）

\*数値は「A（よく行っている）+B（だいたい行っている）」 単位は%

分類	項目（目標値）	具体的な内容	小	中	一貫校	○成果 ●課題	学校関係者評価	学校の見解と今後の方向性
保護者との連携	(1)学校は、学校の取組や児童生徒の様子をわかりやすく伝えていると思いますか。(80%)	○学校だより、小中一貫校だより「小野の学舎」・「おのハンモックだより」、学年・学級だよりの発行 ○ホームページによる情報発信	94.9	96.5	95.7	○各種通信、ホームページ等を通じて、各家庭に一貫校としての取組や児童生徒の頑張りが伝わっていることが分かる。	学校の実践の一部は保護者に伝わっていないこともあり、評価しづらい項目も多いのではないかと。アンケート（web）の資料として活動の様子が分かる写真を付けたことは、普段なかなか伝わりにくい学校の中の様子を伝え、評価していただく一助となった。来年度以降も学校評価の依頼とともに、評価項目に関する学校の取組を伝えてもらえるとうわかりやすいと思う。 おのハンモックへの登録の依頼等については、PTAや地域づくりセンターの行事等で引き続き、周知を図ってきたい。	小野連携型小中一貫校の教育目標「夢に向かってかがやく子」の実現におけるコミュニティ・スクール（学校運営協議会、地域学校協働本部「おのハンモック」）の取組に関して、保護者や地域の方々の理解が進んでいる。「学校・家庭・地域の協働による『夢に向かってかがやく子』育成アクションプラン2025」のさらなる周知・活用を通して、小野の子供の健全育成並びに学力向上を進めていく。
協力しやすい環境づくり	(2)学校は、行事や日常指導（健康・生活・安全・進路面等）について、保護者との連絡・連携を大切にしていると思いますか。(80%)	○学校行事や各種連絡などの通知発信 ○緊急時の連絡メールの送信	93.5	93.9	93.7	○学校連絡メールを通じた通知、緊急連絡等は、各家庭に適切なタイミングで伝わっていると考え。		
小中一貫教育の理念とその特徴を生かした教育	(3)学校は、9年間の学びのつながりを大切にしたい小中一貫教育を進めていると思いますか。(90%)	○小学校高学年の教科担任制 ○小学校英語、図工における中学からの専科教員乗り入れ授業 ○「これまで」の学びを生かした子供主体の授業の実践	92.3	97.2	94.8	○目標値を若干であるが上回っている。小中一貫教育への理解をさらに進めるために、授業参観等において「小野連携型小中一貫校における授業」についてあらかじめ周知するなどの工夫をする。		
地域の教育力を有効に活用した教育活動	(4)学校は、コミュニティ・スクールとして、地域の力を活用し、地域の方と協働した学校づくりを進めていると思いますか。(80%)	○学校運営協議会（地域・保護者・有識者等による学校運営についての話し合い・方針の助言）の取組 ○学校教育目標とリンクした「夢に向かってかがやく子」育成アクションプラン2022をもとにした取組 ○地域コーディネーター（学校ボランティアの募集・調整・派遣）を中心とした学校ボランティアの活動（地域学校協働本部「おのハンモック」）	96.1	95.2	95.7	○学校運営協議会を核とした地域と協働した取組が進んでいる。おのハンモックの活動がさらに進み、「ハンモックだより」も定期的に発行され、保護者や地域への周知も図られている。今年度改定したアクションプラン2025の周知を図ってきたい。		

【挑戦 かしくく】

子供主体の分かる授業	○学校は、子ども主体の「分かる授業」の実践に努めていると思いますか。(80%)	(5) 漢字や計算、英単語（中学）等の基礎基本の定着	91.7	80.8	86.3	○概ねよい結果であると言える。	個人の自信につながる家庭学習を定着させる工夫をしてほしい。家庭でもやる気を出すきめ細かな指導ができるとよい。主体的な学びを深めるためには、個別指導を充実させる必要があると思うが、進めていくには先生方は大変だろうと懸念する。 読書については、習慣化させていくことが重要である。寝る前に本を読む、毎日時間を決めて読書をする等、工夫した習慣づけを図りたい。 また、読み聞かせなども読書好きな子供を育成するには有効かと思う。「お気に入りの本との出会い」があると、読書好きになることが多い。自分が読んだ本を友達に伝える場をつくる等の工夫を設けて、読書好きな子供を育てたい。	「読書習慣づくり」について、朝読書の習慣や小中の図書委員会の活動を通して、子供が読書に親しむ機会がもてるような工夫を今後も継続していく。また、中学生になると読書量が大きく減っていることから、『おすすめの本』等を紹介して読書の楽しさを伝えるなど、日常的に読書が話題になるようにする。 家庭におけるメディア使用の時間等、子供の家庭生活における実態を把握するとともに、家族と一緒に読める本を紹介するなど、家読の啓発に努めていく。
		(6) めあてを大切に、「これまで」の学びを生かした授業の実践	93.7	95.2	94.5	●引き続き、非認知能力の育成を目指した授業改善に努めるとともに、自分の言葉でまとめや振り返りをするなどの指導の工夫を続け、自分の考えを発信しながら主体的に学ぶ児童生徒を育成する。		
		(7) 自分の考えをもち、友達の考えのよさを取り入れる等、話し合い活動の工夫	93.2	93.9	93.6	○目標値を上回っている。 ●授業と家庭学習のつながりをもたせ、児童生徒がさらに学習への意欲を高め、学びの質が向上するように家庭学習の課題の提示について工夫を続ける。		
		(8) ICTを「意見交流」「まとめ」「振り返り」等に適切に活用した授業の実践	90.5	95.8	93.2	○目標値を上回ることができた。 ●朝読書の習慣化、家読の日の呼びかけ、読み語り、小中の図書委員会による読書の呼びかけ等のさらなる強化を進めていく。		
自主的な家庭学習習慣づくり	(9) 学校は、家庭での自主学習の習慣づくりに努めていると思いますか。(80%)	○学年の発達段階に応じた宿題の出し方 ○自ら考えて勉強する力を育てる自主学習の奨励 ○ドリル等繰り返し学習による基礎・基本の定着	87.3	87.0	87.2			
自主的な読書習慣づくり	(10) 学校は、読書に親しむ機会を設け、読書好きな子供を増やしていると思いますか。(80%)	○朝読書（小：毎週月曜朝、中：毎朝）による読書習慣の育成 ○図書を活用した授業づくり	88.4	82.8	85.6			

【共生 なかよく】

あいさつ・感謝の大切さの指導	○学校は、あいさつや言葉遣い等の礼儀、人に感謝することの大切さの指導に努めていると思いますか。(90%)	(11) あいさつ運動の推進	91.6	92.5	92.1	○目標値を上回ることができた。	あいさつをすると返してくれる児童生徒がほとんどである。地域でもよくあいさつをする生徒を見かけるので、あいさつ運動の効果が伺える。 礼儀や人に感謝することの大切さは、大人が見本を示していくことも必要だと思う。 小野地区は9年間、同じ集団なので人間関係が固定したり、つまづいたりすることも多	「いじめ問題撲滅に関する取組」については、100%を達成しなければならない項目である。いじめ問題以外でも子供にとって困ったことや悩みがあったときに、いつでも誰にでも相談できる関係づくりに努める。 また、月1度の生活アンケート以
		(12) 道徳等授業での指導	94.8	94.5	94.7	●改定した「夢に向かってかがやく子育成アクションプラン2025」の周知と一層の活用により、学校・家庭・地域の協働を進めていく。		
		(13) 学校生活における日常指導	94.1	93.1	93.6	○良好である。学級や学校でのよりよい人間関係づくりを目指した「共生」に関わる取組が充実していることが分かる。		
子供たちのよりよい人間関係づくりへの取組	○学校は、子供同士が協力して活動できる場やその機会を設け、共感的な人間関係づくりに努めていると思いますか。(90%)	(14) 異学年集団（小：レインボー活動 中：きずなタイム）による活動	98.4	94.5	96.5	●引き続き、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団		
		(15) 学級の集団づくりをめあてとした学級活動	95.6	91.1	93.4			

	いますか。(80%)	(16) 毎日の授業で、他者の意見や考えを大切にする指導	94.0	95.9	95.0	や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。		
いじめ問題の撲滅に対する組織的な取組	◎学校は、いじめを許さない学校づくりに努めていると思いますか。(100%)	(17) 月1回のいじめアンケートの実施による実態把握と組織的な対応	85.9	92.4	89.2	○善悪の判断をする、いじめは絶対にしないといった項目において、児童生徒の意識が高い。(小:96.9 中:97.1)	いと聞く。異学年集団や学級、学年での活動を通して、共感的な人間関係を育んでもらいたい。 いじめ問題については、学校運営協議会でも「いじめ問題解決に向けた教育懇談会」をこれからも開催して、保護者、地域が学校と一体となって解決に向け取り組んでいきたい。	外でも、子供が相談しやすい環境作りについて考えていくとともに「SOSの出し方」についても指導していく必要がある。引き続き、児童生徒、保護者が皆安心して学校生活を過ごせるよう、学校一丸となって組織的に取り組んでいく。
		(18) 人権週間を通しての人権意識の高揚と自分の振り返り	89.2	91.8	90.5	●いじめ問題解決に向けた子ども会議、地域における教育懇談会で話し合われた内容の周知、実践について重点的に取り組む。		
	(19) 道徳の授業の充実	93.2	94.5	93.9	●(20)について特に小学校の数値が低い。子供や保護者への丁寧な声かけ(働きかけ)を今後も継続していく。			
	(20)学校は、子供や保護者が相談できる機会を設けていると思いますか。(80%)	○二者面談や三者面談等の実施 ○スクールカウンセラー等による相談活動の実施	84.7	87.7	86.2			

【自立 たくましく】

夢をもたせ、実現に向けての支援	(21)学校は、主体的に自分の在り方や生き方について考え、夢をもった子供の育成に努めていると思いますか。(90%)	○よりよい生き方を考える道徳の授業 ○キャリアパスポートを活用した目標設定や振り返りの充実 ○様々な外部講師を活用したキャリア教育の推進	89.2	89.7	89.5	●リーフレット「『夢に向かってかがやく子』キャリア教育の9年間」の見直しを図る。 ●すべての教育活動が、児童生徒にとっての夢、よりよい生き方につながっているということを伝えていく。	おおむね、「大変よい」「よい」という評価だが、まだまだ学校の取組や児童生徒の学校での様子がよくわからずにこの選択肢を選んでいる人も多いであろう。評価項目、評価の仕方を変えてみるのもよいのではないかな。 中学生になると夢をもっているという生徒の割合が減っている。小野小中一貫校で目指す子ども像「夢に向かってかがやくこ」の育成に向け、夢や目標を持たせていきたい。 多くの児童生徒が係や生徒会活動に積極的に取り組んでいるようなので、引き続き充実した取組を期待する。 自転車運転には、一時停止をしなかったり、並進走行していたり改善すべき点も時々見受けられる。事故にあってからでは遅いので、小学生の段階から交通ルール、マナーを教えていく必要がある。	「自己決定を大切に、子供のよさを認め、ほめ、伸ばす」については、学年が上がるにつれ、自分の意見を発表することに躊躇する傾向がみられる。友達と交流しながら自分の意見のよさを実感し、自信をもって発表できるようさらに努めていく。
自己決定を大切に、子供のよさを認め、ほめ、伸ばすこと	◎学校は、子どものよさを認め、ほめ、伸ばしていると思いますか。(80%)	(22) 粘り強く頑張る過程や友達等への温かい態度等への賞賛	88.9	89.7	89.3	○目標値を超えている。今後も児童生徒一人一人のよさ、頑張りをよく見て、認め、誉め、伸ばしていく。		
時間を守り、主体的な行動がとれること	(24)学校は、時間を守り、主体的に行動できるよう子供に指導していると思いますか。(80%)	○授業のチャイムスタート・チャイムフィニッシュ ○生徒会・児童会活動の充実 ○学級活動や委員会活動を通じた話し合い活動の場の設定	96.4	92.4	94.4	○目標値を超えている。 ●ただし、児童生徒の数値の中で、学級会や委員会における子供主体の取組に関する項目の値が低かった。自治的活動のさらなる充実を図る必要がある。		
ルールやマナーを守る規範意識や、健全な心身の育成	(25)学校は、ルールやマナーを守り、健全な心身を育くめるよう子供の育成に努めていると思いますか。(80%)	○不審者(1学期)・地震(2学期)・火災(3学期)等の避難訓練の実施 ○日常的な交通・安全指導 ○給食センター職員による給食指導や養護教諭による健康指導(学校保健委員会等)、保健体育の授業(心肺蘇生・喫煙の影響等)	94.3	93.2	93.8	○概ね良好な結果である。今後も家庭、地域との協働のもと、生命を第一に考えた行動がとれる児童生徒の育成に向けて取組を進めていく。		

【学校・家庭・地域の協働による「夢に向かってかがやく子」育成アクションプラン2022】

挑戦 かしこく	(26) お子さんの学習に関心を持ち「がんばってるね」など励ましの声をかけるよう努めていますか。	91.7	88.4	90.1	○児童生徒の学習に高い関心を持ち、やる気を育む言葉かけをしていることが分かる。	保護者、本人の自己評価なので実態に即した評価結果なのかと思われる。課題は今年度作成の「アクションプラン2025」を通して、次年度以降の改善につなげていきたい。	コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の一層の充実を図り、引き続き、「地域で子供を育てる学校づくり」及び「夢に向かってかがやく子の育成」に努めていく。
	(27) お子さんが家庭学習に集中できる環境をつくるよう努めていますか。	87.7	85.6	86.7	●家読の周知、読書習慣づくりについて、学校での取組を積極的に家庭に伝えていく。メディアの安全な使用についても同様である。		
	(28) 一緒に本を読むなど、本に親しむ習慣づくりに努めていますか。	55.0	38.3	46.7			
共生 なかよく	(29) 大人が率先してあいさつや感謝の言葉を言うよう努めていますか。	98.1	97.3	97.7	○家庭・地域であいさつの大切さを伝えたり等、「アクションプラン2022」の積極的な取組をしていただいていることが分かる。今後も、児童生徒の豊かな心、人間関係を築く力の育成を目指して、家庭、学校、地域で協働していく。		
	(30) お子さんの声をしっかり聞き、家庭でのコミュニケーションを大切にしようとしていますか。	96.8	96.6	96.7			
自立 たくましく	(31) お子さんが、失敗を恐れずに夢に向かって挑戦しようとする努力を認めていますか。	94.1	95.2	94.7	○各家庭において、児童生徒のよさを認め、夢や目標に向かって挑戦する気持ちを育てていることが分かる。学校や地域との連携により、さらに進める。		
	(32) お子さんのよさを認め、積極的にほめ、伸ばすようにしていますか。	96.0	91.8	93.9	●(34)は命を守る行動であり、大変重要である。学校での取組を家庭、地域と連携させながら一貫校として取り組んでいく。		
	(33) 早寝・早起き・朝ご飯などにより、規則正しい生活習慣を身に付けさせていますか。	92.0	83.6	87.8			
	(34) 不審者対応、災害時の避難など、家族で安全な過ごし方を考えて生活していますか。	79.5	75.2	77.4			